



# 陸の水

— No. 44 —

日本陸水学会東海支部会  
ニュースレター2010年3月12日  
発行：日本陸水学会東海支部会  
連絡先：〒464-8601 名古屋市千種区不老町  
名古屋大学 大学院生命農学研究科  
土壤生物化学研究分野内  
Tel & Fax. 052-789-5323  
E-mail. rikunomizu@hotmail.com

## 日本陸水学会東海支部会 第12回研究発表会・総会の報告

2010年2月20~21日の2日間に渡り、岐阜県恵那市の温泉「観月荘」にて第12回研究発表会・総会が行われました。愛知、岐阜、静岡、滋賀からの参加者、また当日参加を含む56名（当日参加者3名）の方に御参加いただき盛会となりました。研究発表会に御参加いただいた皆様、発表をされた皆様、会員の皆様に深く御礼申し上げます。研究発表会では、28題目の発表があり質疑応答では、多くの意見交換がされました。発表内容は、湖、ため池、水田、ダム、森林土壌水分、山地河川、都市河川、干潟など様々な水域における物質循環や水文、土砂生産、魚類、両生爬虫類、甲殻類、水生昆虫、水質浄化に関する発表、市民参加による河川調査報告など多岐に渡るものでした。陸水学会東海支部会ならではの多方面からの質問があったのではないかと思います。実際、他の学会では質問されないような質問をされて面白かった、参考になったという感想がありました。また一方で、質疑応答の時間が短い、もっと活発な意見交換があつてもよいのではないかという意見もありました。質疑応答の時間配分に関する意見については今後の課題にしていきたいと思います。三田村緒佐武氏（滋賀県立大学）による特別講演では、陸水学には未来があるのか？支部会からの改革をめざそうという、「現状批判を伴う提案的」な講演をしていただきました。「陸水学の原点に戻り、総会では活発な討論を行い支部会から陸水学会を立て直そう」という講演は、総会のありかたや、2日目の研究発表会に良い刺激を与えていただいたと推察されます。総会では、2009年度活動・会計報告及び2010年度活動計画・予算案、第二論文集の編集体制や要望書に関する覚書について意見交換が活発に行われました。また、「名古屋市天白区に位置する里山保全処置を求める要望書」の依頼人である宗宮弘明会員から要望書に対する感謝と里山の現状報告がありました。引き続き行われた懇親会では毎年恒例の如く、参加者同士の交流が夜遅くまで和やかに続きました。

発表風景 1



発表風景 2



三田村緒佐武氏





(文責：宗宮麗)

\*\*\*\*\*

## 2009年度日本陸水学会東海支部会の活動報告

今年度で第13回となる総会が、研究発表会1日目の夕刻に開催されました。担当者から事業・会計等について説明があり、審議・承認されました。

### ・事業実施報告

昨年度の第12回総会において承認された事業内容（「当初計画」）と今年度の事業実施状況を次の表にて報告いたします。

活動項目	当初計画	実施状況
教科書発刊	2009年9月に発刊	<ul style="list-style-type: none"> <li>2010年1月、朝倉書店より発刊</li> <li>印税分（80冊）と合わせ、100部を支部会で引き取り。</li> <li>定価2,600円(税別)のところ、2,300円（著者割引相当）で希望者に販売。</li> </ul>
論文集発行	12月までに校正完了し印刷・発行	<ul style="list-style-type: none"> <li>2010年1月、陸の水43号として発行</li> <li>論文12本+著作リスト3本 合計108ページ</li> <li>会員に配布するとともに1冊2,000円で販売</li> </ul>
ニュースレター発行	年間4号	6月（No.40）、9月（No.41）、12月（No.42）、3月（No.44）に発行。
サマースクール	夏に実施	8/29土-30日に岐阜県恵那市の坂折棚田で実施。講師に相田明氏（岐阜県立国際園芸アカデミー）、池谷幸樹氏（岐阜県世界淡水魚園水族館アクア・トトぎふ）を招いて棚田の見学、河川での実習。21名参加（+講師2名、事務局6名）。
談話会	春・秋・冬に実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>第12回談話会（5/15金）：中川麻悠子氏（東工大）、吉岡崇仁氏（京大）。35名参加。</li> <li>第13回談話会（10/23金）：戸田浩子氏（愛知農総試）、大八木英夫氏（日大）。24名参加。</li> <li>第14回談話会（1/22金）：田代喬氏（名大院）、内田臣一氏（愛工大）。24名参加。</li> </ul>
見学会	秋に実施	9/5に調査を兼ねて平針地区の里山にて実施。8名参加。
助成金	総額10万円で1件以上採択	1件の応募があり、審査の結果、可児市めだかの楽校・河崎典夫氏に10万円助成。



## 【支出】

費目	予算	備考
郵送料	40,000	陸の水 4回、総会案内等
ニュースレター発行	60,000	陸の水 4回、総会案内等印刷代
要旨印刷費	60,000	第 12 回研究発表会要旨集印刷代 (160 部)
事業費	150,000	総会等補助、研究助成、談話会等の講師謝礼
論文集発行費	170,000	
雑費	10,000	振込み手数料など
予備費	692,334	
総計	1,182,334	

## ・次年度役員体制（任期 2 年間）

2010 年度は、新会長を含め新たに 4 名が就任します (\*: 新役員)。庶務、ニュースレターブリーフィング、総会、事業など未決定の役割分担は、本年度最終幹事会で決定し、報告します。

会長：宗宮弘明\*（名古屋大学）

幹事：石川雅量（たんさいぼうの会）・広報（HP 管理）

幹事：岡田直己\*（中部大学）

幹事：佐川志朗（(独) 土木研究所自然共生研究センター）

幹事：宗宮麗（名古屋女子大学）

幹事：藤谷武史\*（東山動物園）

幹事：松本嘉孝（豊田工業高等専門学校）

会計監査：石田典子\*（名古屋女子大学） （※幹事は五十音順）

（文責：村瀬潤）

\* \* \* \* \*

## 第 14 回 東海陸水談話会の報告

講演 1 田代喬氏（名古屋大学大学院工学研究科社会基盤工学専攻）

「伊勢湾流域圏の自然共生型環境管理技術開発」

講演 2 内田臣一氏（愛知工業大学工学部都市環境学科）

「矢作川中流の河川環境」

2010 年 1 月 22 日に第 14 回の談話会を愛知工業大学本山キャンパスにて開催しました。大寒が過ぎたばかりの寒い中でしたが、26 名の参加があり、質疑応答では時間を延長して熱い議論がかわされました。まず、村瀬幹事から田代氏の紹介がありました。田代氏は学位を取得後、土木研究所研究員として勤務し、2006 年から現職に就いたそうです。田代氏には、現在主要メンバーとして関わっている研究プロジェクト「伊勢湾流域圏の自然共生型環境管理技術開発」について、研究背景から丁寧にお話いただきました。現在、COD 値の環境基準達成値が伊勢湾で約 50% のまま長年横ばい状態であることが指摘されています。この理由について、流入水の下水割合が考えられ、東京湾が 7 割であるのに対して、

伊勢湾では2割ほどであり、下水によらない流域管理が重要であるとのことでした。そこで、研究プロジェクト前半で既に確立した生態系サービス評価に基づく定量的な環境アセスメント技術と自然共生シナリオでの環境修復技術を用いて、プロジェクト後半では、自然共生型社会像を提示しつつその実現に向けて戦略アセスメント手法を提示するために研究を継続中とのことでした。まず、これまで流域として捉えてきたものを流域圏（連結された流域集合体）とすることによって、様々な物質のフラックス網を捉えることができるそうです。研究は、フラックス解析、生態系表現モデル、流域圏総合化モデルの3つの観点から、自然共生型流域圏へのアプローチを構築しているそうです。これらのとりまとめから、流域圏環境アセスメント技術の構築による、各所での施策の効果や各所の生態系サービスの統合化からの流域圏全体としての評価が可能となったそうです。今後は、構築したモデルの流域や流域圏全体への適用を試みることでした。壮大な研究プロジェクトであり、課題も多いですが、5年間の限られた中で着々と進んでいることが分かりました。会員からの質問も自然と熱をおび、これから適用に期待するための熱心な議論が交わされました。続いて、八木会長から内田氏の紹介がありました。内田氏は、1986年にドイツのマックスプランク陸水学研究所へ留学後、学位を取得し、琵琶湖県立博物館の準備研究員を経て、2000年に現職に就いたそうです。内田氏は、現職に就くまで生物分野の研究者であり、土木分野は天敵と思っていたとのことです。しかし、土木こそ自然環境の重要性を知る必要があるとして学生指導に携わっているそうです。今回は、10年間関わっている矢作川の研究事例について、幅広くお話をいただきました。矢作川中流域では、洪水による災害に対して平均河床高が高くなっていることが問題とされています。しかし、中流域付近の住民は水面が下がっている。と指摘し、相反する意見が浮上しているそうです。そこで、1960年と2002年の河川の横断面図を比較すると、低水路の水面は下がっているのに対し、高水敷付近には大量の堆積物が確認でき、そのため平均河床高が高くなっていると報告されたとのことでした。また、先生のご専門の水生昆虫について、出水による河床の搅乱後は、カゲロウ、ユスリカ類が優占→ヒゲナガカワトビケラ優占→オオスミカワトビケラ優占と2~3年で遷移することが分かってきたそうです。1980年代後半から生物異常が問題視されはじめ、カワシオグサの繁茂や造網型トビケラ類優占、2005年、2006年には外来種カワヒバリガイの大繁殖、2009年にはオオカナダモ繁殖の報告がありました。さらに、河床が過度に安定することにより以前の生態系が壊れてしまうことが問題と指摘されました。これまで、土木分野では、出水による河床の破壊から底生生物を守ることが必要とされてきましたが、ある程度の河床変動は必要であるとのことでした。その後、会員17名が参加し親睦会が開催されました。支部会ならではのアットホームな雰囲気の中、各自研究の話を交え交流を深めました。



内田代良・懇親会にて



内田代良・談話会にて

(写真：上野薰、文責：梅村麻希)

## 支部会編集の教科書について

朝倉書店より、1月20日付けで発刊されました。タイトルは「身近な水の環境科学」(ISBN978-4-254-18023-7)としました。13名の支部会員が執筆者に名前を連ねています。定価2,600円+消費税。一般書店の店頭にも並んでいますが、支部会を通じていただければ、著者割り2,300円で販売いたします。教科書、セミナーなどで活用していただければ幸いです。購入希望者は支部会事務局までご連絡ください。

教科書執筆の印税収入は、全て教科書の購入費用に充てています。購入分100部が完売できれば、支部会に約19万円弱を寄付することができます。初刷り1,000部が完売できれば、増し刷りにより、更に収益を上げることができます。また、より良い改訂版を出すことも可能です。販売促進にご協力ください。

発行が予定よりも大幅に遅れたことをお詫びするとともに、会員の皆様のご支援に感謝いたします。

### 附) 教科書経理報告

収入；印税；2,600円（定価）×0.08（印税率）×（1,000-80）（印税が掛かる発行部数）  
=191,360円

支出；支部買取；2,600円（定価）×0.85（著者割率）×100（支部買取部数）×1.05（税）  
=232,050円

差額の40,690円が支部の負担となり、教科書100部が資産となります。

100部を2,300円で完売できれば、230,000円の収益、純益は230,000円-40,690円  
=189,310円となります。

(支部教科書編集担当 村上哲生・野崎健太郎・寺井久慈)

\*\*\*\*\*

## 日本陸水学会東海支部会第二論文集企画

今年度に続き、新年度も新たな論文集を発行することが総会で承認されました。会員が、個々の研究成果を論文として公にすることにより、東海地区の陸水学的な情報発信を強化するとともに、会員による査読を徹底させることにより、会員相互の議論を活性化し、地域の陸水学の発展を図ることを目的に掲げています。

編集体制や審査（査読等）のやり方は前年度のそれを踏襲し大きな変更はありません。さらに、「資料」というカテゴリーを新設しました。刷り上がり2頁程度で、データ、写真などと説明文で、東海地区の水や水生生物の情報を紹介してもらう企画です。また、第一論文集と同様に、先輩会員の業績集や依頼論文等の掲載も予定しています。論文集の発行は、来年3月末を予定しています。会員の皆様の投稿をお待ちしております。

「論文」・「資料」 投稿予定者→編集委員長・村上宛に、メール、Fax、郵便でタイトルと著者名をご連絡ください。投稿規程等連絡いたします。

「業績集」、「依頼論文」→編集委員会から依頼文書を送ります。ご執筆よろしくお願ひいたします。

「こんなことが論文・資料になるんだろうか?」と迷っている貴方



まず編集委員会にご相談ください。

連絡先は〒467-8610 名古屋市瑞穂区汐路町 3-40 名古屋女子大学 村上哲生  
TEL; 052-852-9739 (研究室直通)、Fax; 052-852-7470  
mail; murakami@nagoya-wu.ac.jp

\* \* \* \* \*

## 論文・書籍情報

林裕美子会員から、論文発表のご連絡をいただきました(①)。また、佐川志朗会員から新刊の紹介がありました(②)。①の別刷をご希望の方は事務局まで御連絡ください。②は佐川会員が著者の一人となっております。連絡していただければ著者割引(15%引き)により購入できます(sagawa77@pwri.go.jp)。興味のある方は是非ご活用ください。

① Hayashi Y. Kawano K. Kushima N. and Murakami T (2009) Effects of riparian vegetation on larval abundance of and case material selection by *Anisocentropus* sp. (Trichoptera: Calamoceratidae): A preliminary report. 「コバントビケラ属の1種の幼虫密度と造巣行動に及ぼす河畔植生の影響(予報)」 Biology of Inland Waters 「陸水生物学報」 24: 41-47.

② 野生生物保護学会(編) (2010) 野生生物保護の事典、朝倉書店、定価 ¥29,400  
地球環境問題、生物多様性保全、野生動物保護への関心は専門家だけでなく、一般の人々にもますます高まっている。生態系の中で野生動物と共存し、地球環境の保全を目指すために必要な知識を与えることを企図し、この一冊で日本の野生動物保護の現状を知ることができる必携の書。[内容] I : 総論(希少種保全のための理論と実践/傷病鳥獣の保護/放鳥と遺伝子汚染/河口堰/他) II : 各論(陸棲・海棲哺乳類/鳥類/両生・爬虫類/淡水魚) III : 特論(北海道/東北/関東/他)

\* \* \* \* \*

## 訃報

御家族から 2010 年 1 月 6 日に本会会員の湊清さんが逝去されたと連絡がありました。三島の国立遺伝学研究所におられた湊さんは、退職後も「三島自然を守る会」の代表理事として富士箱根伊豆一帯の自然環境の保全に尽力されてこられました。謹んで御冥福をお祈り申し上げます。

## 退任会長および幹事のご挨拶

最後に、3月限りで任期をむかえる会長と幹事のご挨拶を掲載させていただきます。

### 八木明彦会長（愛知工業大学）

支部会は、1999年日本の陸水学研究が始まって100年目を記念して設立され、早くも10年を経過しました。私は、この筋目の2年間、多くの優秀なスタッフに恵まれ無事に任期を終えることが出来ました。月1度の幹事会や、サマースクール、見学会、勉強会、総会と東海支部会の多くの行事に会員皆様の協力の下で、「陸水学」の浸透・発展に多少なりともお手伝い出来たと思っています。特に、支部会の創立10周年記念行事として「教科書、身近な水の環境科学」、「陸の水、論文特集号」をそれぞれ刊行出来ました。編集委員長村上哲生会員・野崎健太郎会員及びそれぞれの編集委員の方々に厚く御礼を申し上げます。また、里山保全に関しては、次期会長宗宮弘明会員の基で多くの会員の協力で調査を実施し、その後、幹事会で集計・報告書をまとめ、「名古屋市天白区に位置する里山保全処置を求める要望書」を名古屋市長に提出しました。これからも、広く地域の人々に伝えて陸水学の普及活動を！「水研究」の重要さを共に語り会員の相互情報交流を！ どうか、支部会の一層の進展をお願いします。

### 村瀬 潤幹事（名古屋大学 庶務担当）

不慣れな幹事で、会員・幹事の方々には御迷惑をおかけしたと思いますが、皆様のおかげで無事2年の務めを終えることができました。この場をお借りして御礼申し上げます。この2年間は支部会というものの意義と役割について考えるとてもよい機会でした。本会は支部会としての1つのあるべき姿を示しているように思います。これからも一会员として支部会の活動に参加していきたいと思います。

### 梅村麻希幹事（愛知工業大学 会計担当）

今から7年前、人生初めての学会発表の場は支部会の研究発表会でした。支部会は私にとって思い入れの深い学会です。幹事としての2年間は新鮮なことが多くとても勉強になりました。これからもぜひ若い方にも幹事を経験していただければと思います。短い間でしたが、お世話になっている支部会に還元できる良い機会に恵まれ感謝しております。

~~~~~  
【会費納入に関するお願い】：同封した振込用紙をご利用の上、お支払下さいますよう、お願い申し上げます。なお、本年度の会費納入状況は芳しくなく、30%ほどの方々は未納となっております（前記の予算決算書参照）。財政状況が逼迫する要因となりますので、ご理解・ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。  
~~~~~